



お客様の満足を第一に～若手会計人の挑戦～

本稿では、実務経営研究会事務局の江面洋治が、中小企業の支援に奮戦している若手会計人にお話を伺います。第16回は、東京都千代田区にあるSwitch税理士法人の長妻広樹さん（写真）取材しました。従業員が全て20代というSwitch税理士法人の中で、長妻さんは顧客満足を第一に掲げ、得意とする資産税分野での積極的な取り組みが注目を集めています。

長妻広樹（ながつま・ひろき）

税理士有資格者。日本大学大学院法学研究科卒。学生時代から会計事務所でアルバイトを経験し、大学院卒業後に税理士法人山田&パートナーズに入社。3年の修業を経てSwitch税理士法人に参加。従業員が全員20代の税理士法人の中核メンバーとして注目を集めている。

Switch税理士法人

東京都千代田区神田佐久間河岸78-6第二寿ビル3F 電話：03-5833-8875

—— 長妻さんの経歴からお話しただけですか。

長妻 以前から士業の資格を取得したいと思っていましたので、日本大学法学部に進学した際、軽い気持ちで簿記検定の勉強を始めました。

その流れで税理士科研究室に入り、担当の教授やOBの税理士などから話を聞くうち、税理士を目指す決意を固めました。

税法学の大家である北野弘久先生の弟子が教授を務める税法ゼミ、そ

れに並行して専門学校で勉強を続け、大学卒業後は、大学院の法学研究科に進み公法学を専攻しました。年も近く、同じ道を志していた仲間たちとは、今も交流が続いています。

大学院卒業後、専門学校時代の友人に勧められたのがきっかけで税理士法人山田&パートナーズに就職し、社会人としての基礎や税務の知識など、多くを学ばせていただきました。

転職は、就職して3年ほど経ったころでした。大学時代からの友人にSwitch税理士法人代表の水村を紹介されたのです。

同年代の従業員たちが和気あいあいと働く、そんな活気のある事務所をつくりたい！という水村の思いに共感し転職して現在に至ります。

—— 会計事務所はどのような存在であるべき、とお考えでしょうか。

長妻 対象が中小企業、もしくは資産税の相談にいられた個人であったりも、お客様の目線に立って問題点やニーズを正確に把握し、それに機敏に対応することが求められていると思います。

加えて、私個人としては、これ

までご縁をいただいた身近な人たちを守りたいという思いもあります。Switch税理士法人に入ったのは、その両方ができると考えたからです。

—— 今、特に力を入れていることを教えてください。

長妻 クラウドの普及が進む昨今、事務所を成長させるには、付加価値の高いサービスを提供して顧客満足度を高める必要があります。今申し上げたB to Cを重視しつつ、B to Bのアプローチも積極的に進めて新規案件の獲得に努めています。

例えば、大手保険会社と共同で、大手法律事務所の若手弁護士向けに確定申告サービスを提供し、大変喜んでいただいています。

また、資産税の案件にもやりがいを感じています。案件の新規獲得の動きとしては、高齢者の不安を少しでも和らげたいという思いから、介護施設のご入居者様向けの相談会を開催する活動を続けています。

—— 最後に、今後の展望をお聞かせください。

長妻 私個人については、これ

まで多くの方に助けていただいたので、今後もご縁を大切にし、助ける側に回りたいと思っています。

Switch税理士法人としては、現在の3人体制から従業員を増やしてよりよい仕事ができる環境をつくり、お客様や周囲の人々の満足度を高め、皆が幸せになるのが理想です。

従業員が全員20代の事務所という特長を存分に生かしながら、30代からの展開に備えて、物心両面で蓄積に努めたいと考えています。

—— ありがとうございます。

取材を終えて

長妻先生の実直なお人柄がうかがえるインタビューでした。人との出会い、ご縁を大事にされてきたからこそ、20代税理士として活躍される現在があるので、今後の成長をぜひ追いかけてみたいと思います。（江面洋治）

